

●発行日/2017年9月10日

●発行元

特定非営利活動法人
ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢釣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

様々な生きにくさを抱える若者たち

ビーンズふくしまに繋がってくる若者たちは、それぞれに何らかの生きにくさを抱えてやってきます。就職したいけど就職活動がうまくいかない、コミュニケーションに苦手さを感じている、人に怖さを感じ動き出すことができない…それに様々な理由で、自信をなくしていく、本当はなんとかしなくてはならないと思っているのに、自分ではどうしていいかわからない…そんな若者たちです。

どうしてそうなってしまうのか、その理由は様々です。でもそれは、若者自身のせいだと家族のせいだとではなく、現在の社会状況や人間関係のあり方など、そなならざるを得ない背景があるということなのだと思います。

人はもともと「生きる力」を持って生まれてきます。でも、その育ちの中で何らかの理由により、その「力」をそがれて来たのだとしたら、それを回復するための関わりが必要です。若者たちは多くは、人との関わりの中で傷つき、自信をなくしています。「人との関わりの中での傷つき」は、人との関わりの中でしか回復することはできません。だからといって、闇雲に人と関わることを頑張れと求めて、それは本人にとっては苦しいのです。

その流れを継承し、対象の年齢を広げて活動してきたのが「ユースプレイス」です。様々な体験を通して、この自分でも大丈夫、人と関わることも楽しい、自分も人の役に立てる、失敗してもやり直せるといった自信を積み重ねてきました。

「若者サポートステーション」もまた自信を獲得していく「場」です。就職したいけど自信がない、どうしていいかわからない若者たちが、相談を取り口にして仕事をするための「学び」や「体験」を積み重ねていきます。そこでは、若者のペースに寄り添いながら、若者が自分で決めるという「自己決定」を大事にしながらすすめています。「自己決定する力」は、これから自分の

イベント紹介

講演会

高齢化するひきこもりの サバイバルプラン

- 日時/2017年11月9日(木)13:30~15:30
- 会場/ミューカルがくと館(郡山市開成1丁目1番1号)
- 対象者/ひきこもり問題を抱えるご家族・ご本人、その支援者

ひきこもりの高齢化が進んでいます。

国の定義でひきこもりとは、社会参加せず6か月以上家庭にとどまっている状態を指します。内閣府が2010年に15~39歳を対象に行った調査では、全国に約54万人いると推計されていますが、40歳以上の実態は把握されていないのが現状です。

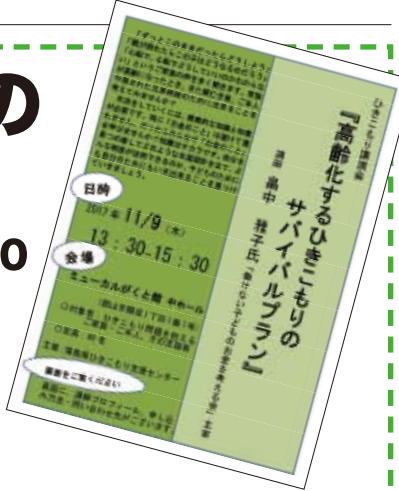
ひきこもりはかつて若者の問題とされていましたが、支援を受けられないまま長期化したり、様々な失敗や失業をきっかけにひきこもったりする40歳代の世代も増えてきています。

KHJ全国ひきこもり家族会が2016年11月~17年1月に、会員に行った調

査では、ひきこもる人の平均年齢は33.5歳で、40歳以上が25%でした。

現在の対策は、20代・30代を中心とした若年層への就労支援が中心で、40歳以上への支援は十分とはいません。親世代は年老いて、「親亡き後」をどう生きていくかが切実な問題となっています。

こうした現状を踏まえ、このたび「働けない子どものお金を考える会」主宰していらっしゃる畠中雅子氏を講師にお迎えし、『高齢化するひきこもりのサバイバルプラン』と題した講演会を開催します。



アンケートのお願い

ビーンズ通信をいつもお読みいただき、ありがとうございます。

今回の通信で83号となり、2000年に初号を発行してから17年目を迎えております。ビーンズふくしまの活動を皆さんに知りたい方へお届けしてまいりましたが、このたび、「より伝わりやすい通信を創りたい」という思いから、皆さまからのご意見・ご感想をいただきたいと思っております。お手数をおかけしますが、以下のいずれかの方法にてご協力をお願い申し上げます。

●FAX→同封のアンケート用紙にご記入のうえ送信してください。

●メール→質問事項への答えを本文にお書きになり送信してください。

info@beans-fukushima.or.jp

ご寄付のお願い

日頃より、ビーンズふくしまの活動へのご理解・ご協力をいただきありがとうございます。子ども若者支援に一貫して取り組んでいるビーンズふくしまですが、既存の制度やしくみだけでは、現状に応えきれない状況にあります。不登校の子どもたちの居場所・若者の活動の場の継続など、これからも子ども若者に充実した支援を届け続けるために、皆さまのご支援をお願いいたします。

【銀行振込み】東邦銀行 本店営業部 普通口座 3692401

口座名義: 特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事 若月ちよ

【郵便振込み】口座番号: 02240-3-38521

加入者名: NPO法人ビーンズふくしま

※なお、詳細は事務局にお問い合わせください。

TEL 024-563-6255 [MAIL] info@beans-fukushima.or.jp



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス

<http://www.beans-fukushima.or.jp/>

様々な「場」の 関わりの中から

ビーンズふくしまは、この18年間、若者たちと何をしてきたのか、何を大事にしてきたのかというと…ひとつは安心して人と関わることができる「居場所」の提供でした。

「居場所」とは何でしょう。それは、自分自身が居ても良いと思える場です。自信をなくしている時に、頑張ることを求められることは辛さしかありません。それは、ダメなあなただから、頑張りなさいと言われていると感じるからです。そうではなく、できない自分も居るけど、それも含めた「この自分」で居て良いのだという、自己肯定できる場や関わりが必要であり、それがあつて初めて、次に進んでいこうという気持ちが生まれてくるのです。

「フリースクールビーンズふくしま」はその原点であり、多くの子どもたち若者たちが、そこから1歩を踏み出していました。

自分らしく 次の1歩を踏み出す 若者たちと共に

人生を自分で決めていくことに繋がる大事な力です。

人との関わりの スタートは

そうはいっても、人と関わることに不安を感じる若者にとって、複数の人との関わりはハードルが高い場合もあります。その時はまず、安心できる1対1の関わりから、ということで、「ひきこもり支援センター」や「若者サポートステーション」では、個別の相談からスタートしています。相談の中で、若者自身のできていることを認め、ひとつひとつの自己決定を大事にしながら、関わりを広げていく活動へと進むことができるよう、支えています。



若者それぞれの「自分らしい」自立へのストーリー

ユースプレイス in ふくしま 安心して帰れる 居場所

挫折と出会い

大学卒業後「公務員になる」という大きな夢を持っていたK君。彼は試験に合格するべく夢に向かって努力していましたが受験に失敗。長期間に渡る受験勉強で自分を見失い始めていたK君は周りの目が気になりはじめ、外に出ることができなくなっていました。

そして夢もなくなりひきこもりが3年経過した時、K君はユースプレイスという居場所に出会います。

仲間との時間が パワーになる

体を動かすことが好きだったK君はスポーツ企画や登山などのプログラムから参加し始めます。さらに居場所

に安心感を抱き始めると、K君は自分のやりたいこと、得意なこと、好きなことをいかして主体的に活動に参加していく姿を見せてくれます。企画を立案したり、仲間と共に運動部を立ち上げたりしながら、生き生きとした表情を見せるようになっていきます。一人じゃないんだ、仲間がいるんだということが彼の背中を押す原動力になっています。

挫折や失敗を経験し社会へ出ることへの不安を抱えている。



沢山のプログラムやボランティア活動、地域活動を仲間とともに行うことで少しずつ自信を取り戻していく。



るようでした。仲間と共に過ごす貴重な時間はかけがえのない経験・体験となりK君の自信に繋がっていました。

帰れる居場所がある

ユースプレイスという居場所で少しずつ自信を得ていったK君は自然と就職という次の一步を目指し、見事正社員として働き始めます。「就職に対する怖さ、不安はもちろん、社会からはじかれたらどうしよう」という思いもある。就職してからも精神的にも体力的にも辛い時もある。でも僕にはユースプレイスという帰れる居場所がある。そこに行って仲間と話すことで何とかな

るという絶対的安心感がある。」とK君は言います。居場所があることが外に出るきっかけとなり、仲間との関係性の中で自信を育み、そして彼らなりの歩みを進めていける、そしてまた笑顔で帰ってこれる、そんなユースプレイスであり続けていきたいと思っています。



若者サポートステーション(福島・郡山)

若者の「なりたい自分」への 一歩一歩を、一緒に

Rさん(20代)は学生時代に対人恐怖症になってから、外出を控えるようになり、働くことに前向きになれませんでした。自主的に体力づくりを始め、何とか外に出られるようになった頃、ソポステを訪れました。当初のRさんは、スタッフとも目を合わせず、質問にもあまり答えてくれませんでした。しかし「今の自分から一歩踏み出したい」

→という思いがあり、まずは個別で活動を始めることにしました。

スタッフは 「自分で決める」を支える

活動中は目を合わせてくれませんでしたが、時折好きなスポーツの話をすると笑顔を見てくれるようになりました。ソポステに慣れると、集団活動

のプログラムにも関心を持ち始め、自分から「やってみたい」と言ってくれました。両腕を組み緊張している様子でしたが、1か月、2か月…と続けていく内に、他の参加者にも自分から挨拶をしてくれるようになりました。「焦って失敗したくない」という気持ちが強い方でしたので、私たちも決して焦らせたりせず、Rさんが決めたことを自分

人と接することが怖く、これからどうしたらいいのか分からなかった。

のペースできるようサポートしていました。

体験から感じた働く意味

やがて、ジョブトレーニング(職場実習)に参加するように。スタッフは上手くできているところを認め、上手くいかないところにはアドバイスしながら、見守り続けました。毎月活動と一緒に振り返りながら目標を立て、働くことへの一歩一歩を重ねていきました。そのうちに周囲から「助かったよ」と言われることや、仕事をやりきることに達成感・やりがいを感じはじめ、就職への気持ちが強くなり、応募活動に移つ

→集団活動のプログラム(コミュニケーション系)の中で自分ができることが増えていった(生活リズムが整う、他の人と協力する、頼まれた仕事をやりきる等)

ていきました。

悩みも迷いも 次の一步に繋がっている

その後、一度は正社員で就職したものの上手くいかずに退職してしまうこともありました。しかし、その経験を「次に活かす」と前向きに考え、今は希望していた仕事に就職しています。もうすぐ働き始めて2年。「忙しくて大変なんです！」といいながらも笑顔で近況を話してくれるのがとても印象的です。

一緒に悩み、迷い、そして次の一步を考え、踏み出す。私たち

は若者の「今の自分」と「なりたい自分」に寄り添うことを大切に、自立へのサポートを続けています。

